

# 18歳選挙で意思表示を

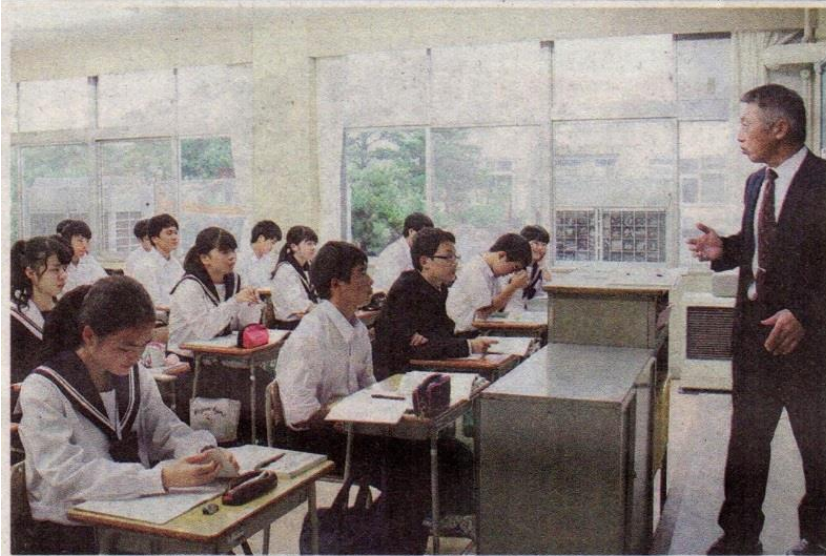
## 豊田西高 1年生から特別授業

選挙権年齢が「十八歳以上」になって初めての衆院選の投票日（二十二日）が迫ってきた。豊田西高校では、選挙権のない一年生のうちから特別授業を実施、三年生には教諭が投票を促すなど、若者たちの政治や選挙への関心を高め、投票所へ足を運んでもらおうと取り組んでいる。

（岸友里）

「民主主義とは多く  
の人の意見が政治に反  
映されること。その大  
切な場が選挙」。現代

社会的特別授業で、丹羽孝夫教諭（五）が一年八組の四十人に語りかけた。



選挙について説明する丹羽孝夫教諭（左）の話に耳を傾ける1年生＝豊田市小坂町の豊田西高で

豊田市の投票所の仕組みや日本の選挙の歴史、投票率の低下傾向などに触れ「投票に行かず政治が悪いとは言えない。選挙権を生かし、若い人の意見をぜひ政治に反映させて



ほしい」と強調した。

一方、三年生三百五十六人は約半数が有権者。毎週末に模試があるなど受験モード一色だが、各学級の担当教諭がホームルームの時間に、有権者は投票日翌日までが誕生日の生徒が対象と説明、投票

を呼び掛けている。

初めての選挙に細田茜音さん（二）は「原発と消費税が気になる」と話す。半面、改憲など各政党の主張の違いが分かりにくい争点もあるといい「将来にどんな影響があるのか、今すべき必要があるのかを明確に打ち出してほしい」と注文する。

選挙権年齢に達さない上野嵩朔さん（三）は「投票できなくてちょっと残念。早いうちに有権者となることで政治に関心を持ち社会の仕組みを理解するのは大切だと思う」と話す。